

第二期奈良市子どもの豊かな未来応援プラン (奈良市子どもの貧困対策計画) 概要版・補足資料

令和4年3月

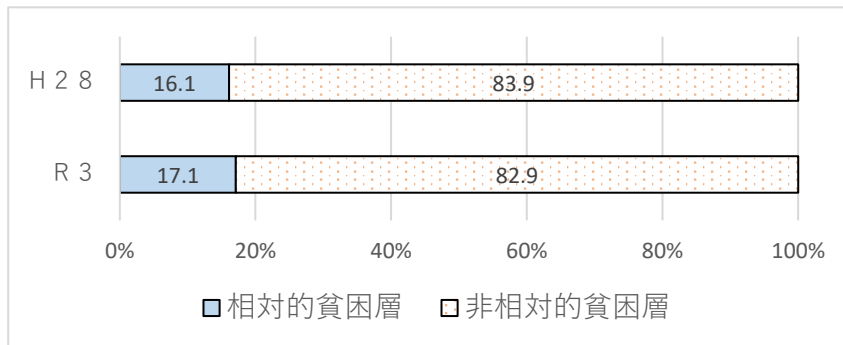
○奈良市子どもの生活に関するアンケート 結果比較(令和3年度、平成28年度)

1 回収状況

		配布数	有効回答数	有効回答率
H28	子ども	2,004通	1,003通	50.0%
	保護者	2,004通	1,025通	51.1%
R3	子ども	2,000通	998通	49.9%
	保護者	2,000通	1,028通	51.4%

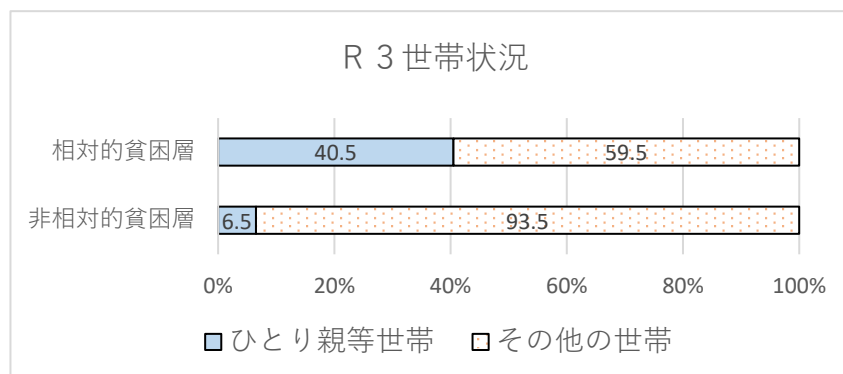
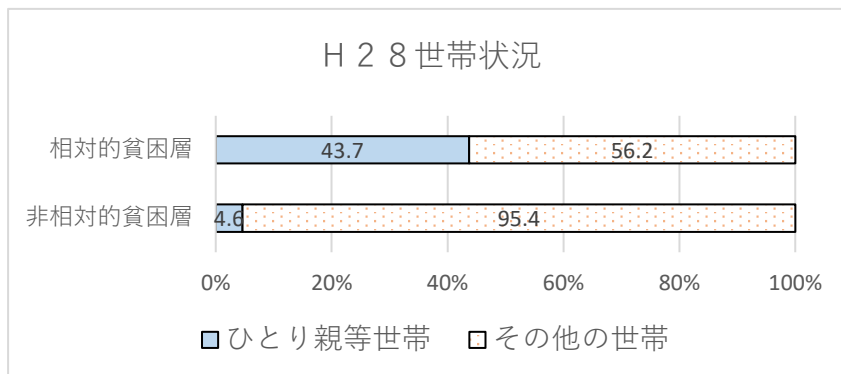
2 相対的貧困層の割合の推移

相対的貧困層の割合は、前回の16.1%から17.1%と増加しています。



3 世帯状況

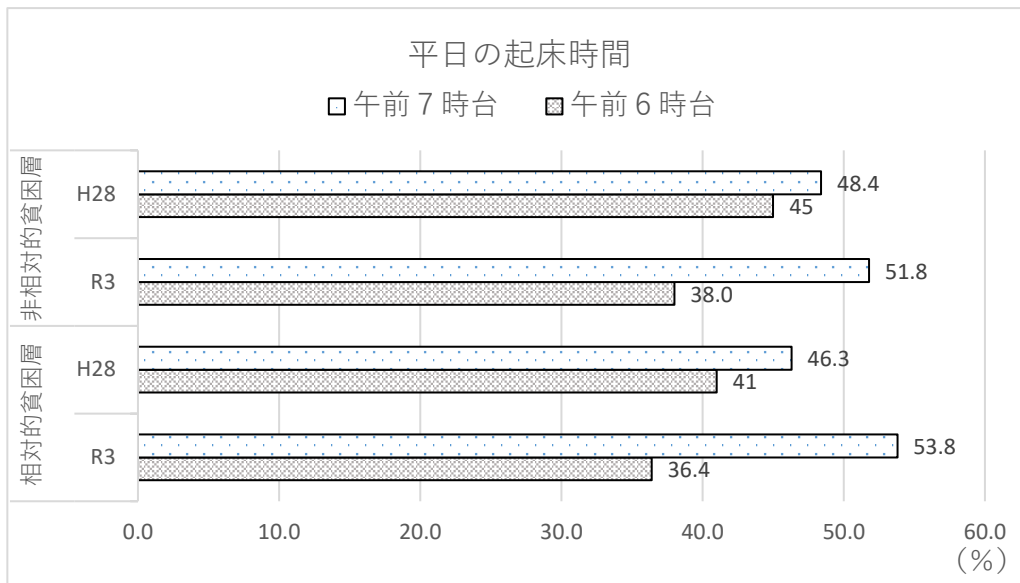
H28に比べて、R3相対的貧困層でのひとり親等世帯の割合が減少しています。また、非相対的貧困層では、ひとり親等世帯の割合が増加しています。



4 相対的貧困層と平日の起床時間との関係の比較

「午前7時台」と「午前6時台」の割合の差について、H28は小さかったが、R3には差が大きくなっています。

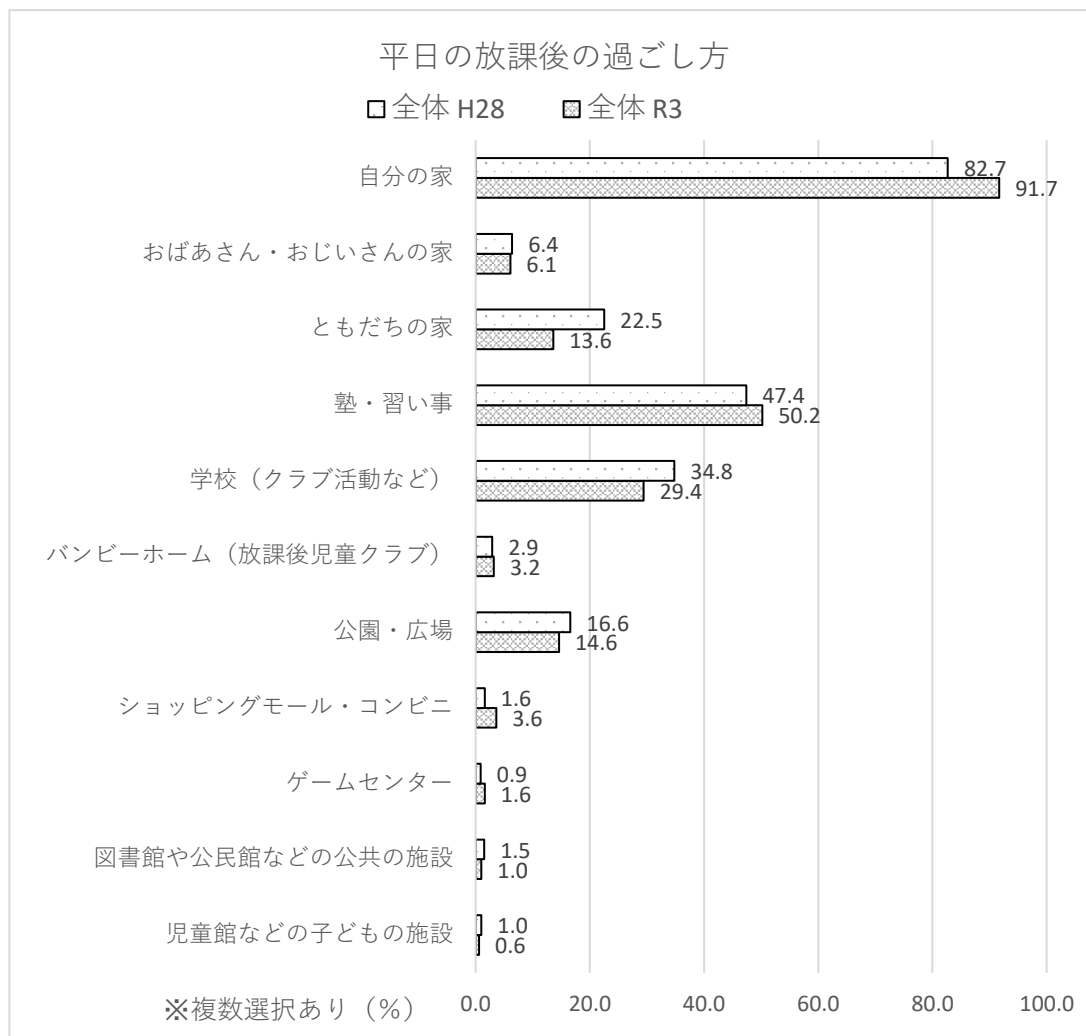
特に相対的貧困層の変化が顕著となっています。



5 子どもの平日の放課後の過ごし方の比較

H28に比べて、R3は「自分の家」で過ごすことが増加しています。一方で「ともだちの家」で過ごすことや、「クラブ活動など学校」で過ごすことは減少しています。

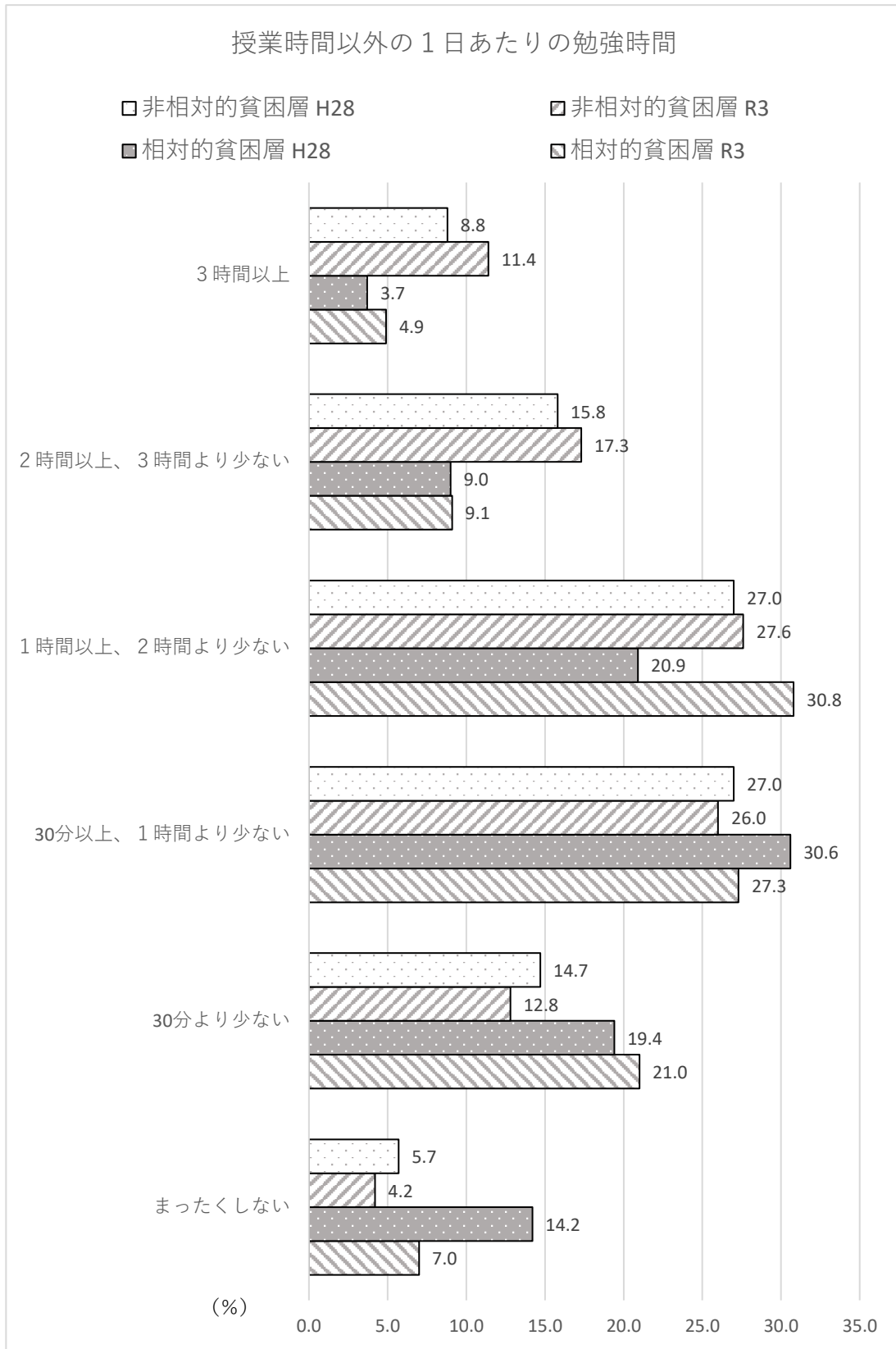
コロナ禍による生活の変化が現れているのではないかと考えます。



6 授業時間以外の1日あたりの勉強時間の比較

H28に比べて、R3は「まったくしない」の割合が減少しました。また、「1時間以上2時間未満」の割合が増加しました。

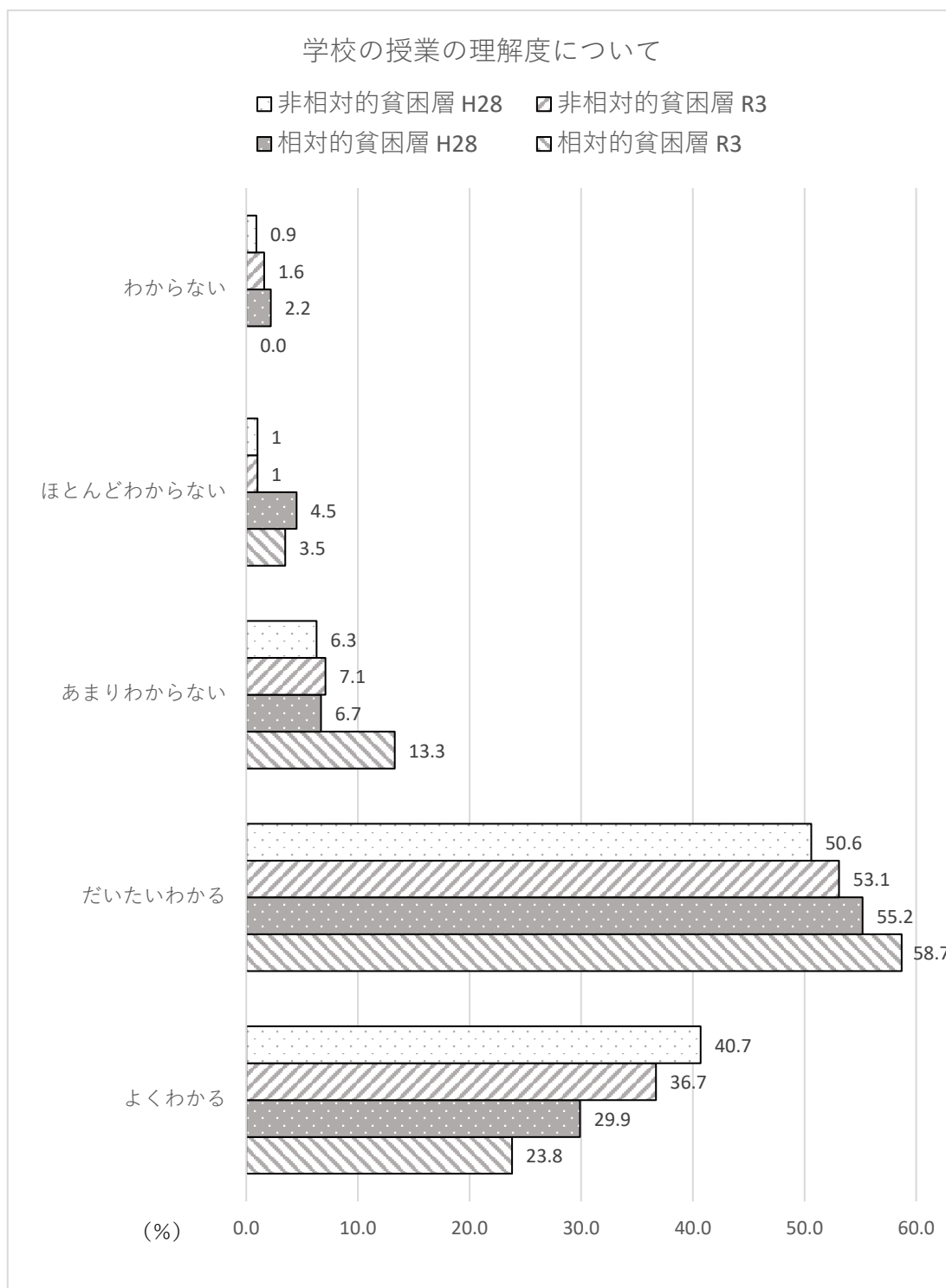
相対的貧困層で顕著に見られますが、リモート授業やタブレット活用により、家庭での学習環境が整えられたことが影響しているのではないかと考えます。



7 学校の授業の理解度についての比較

H28に比べて、R3は「よくわかる」の割合が減少しています。また、「あまりわからない」の割合が増加しています。

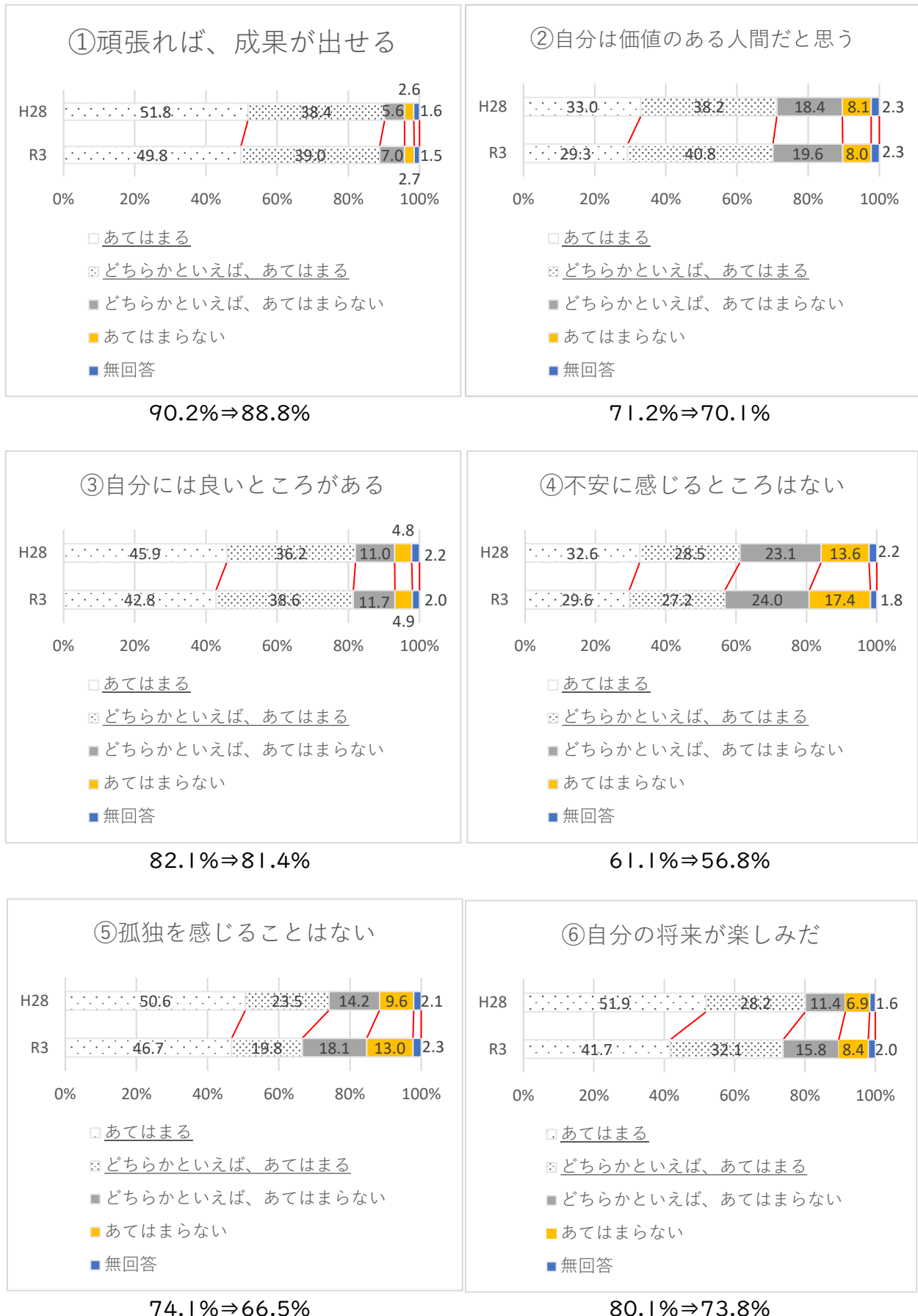
この変化は相対的貧困層で顕著に見られます。



8 子どもの自分自身のことについての比較(自己肯定感)

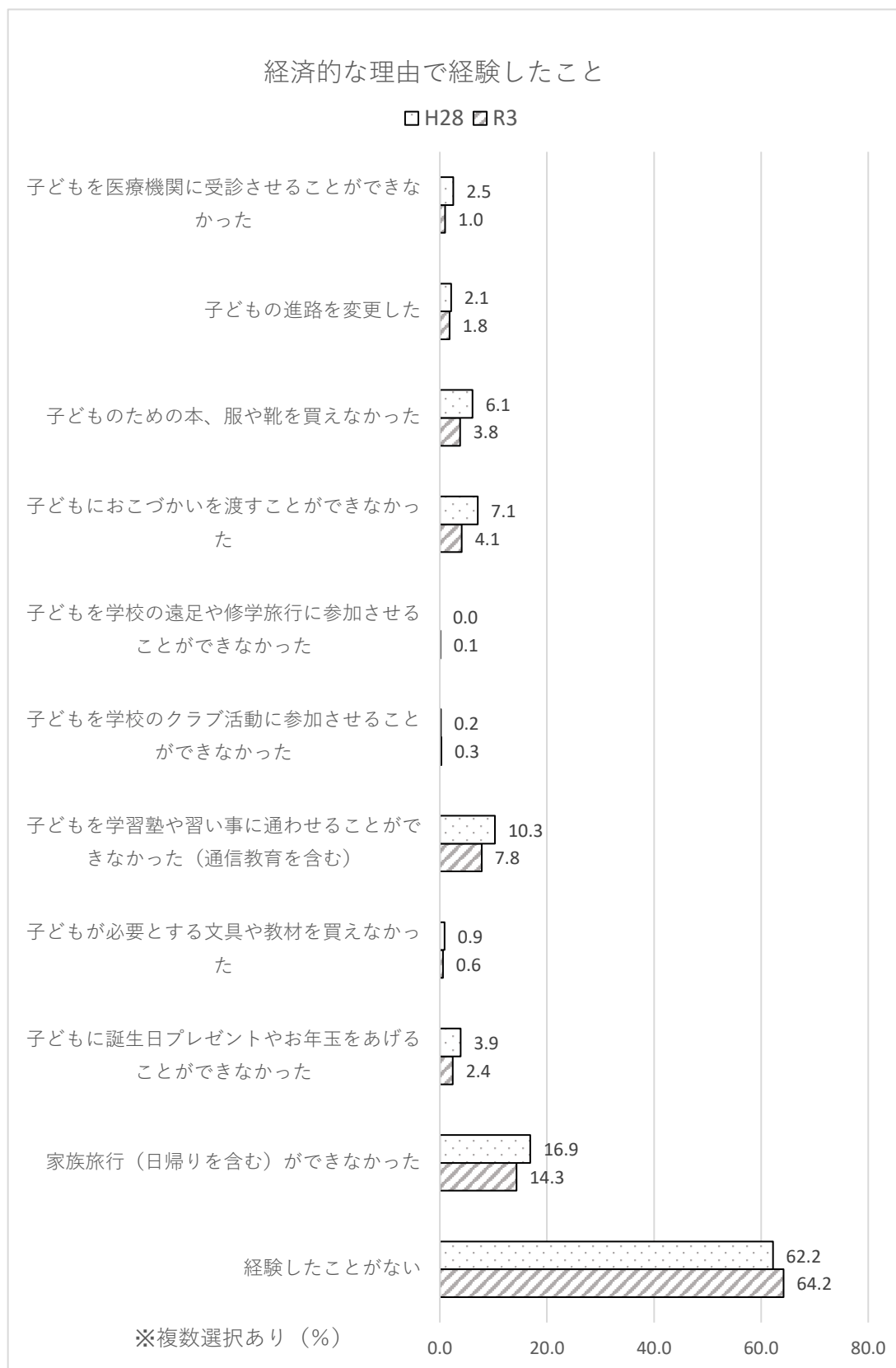
H28に比べてR3は、すべての項目において、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を足したものの割合は減少しています。

コロナ禍で様々な機会を失ったことが影響していると考えられます。



9 保護者の経済的な理由で経験したことについての比較

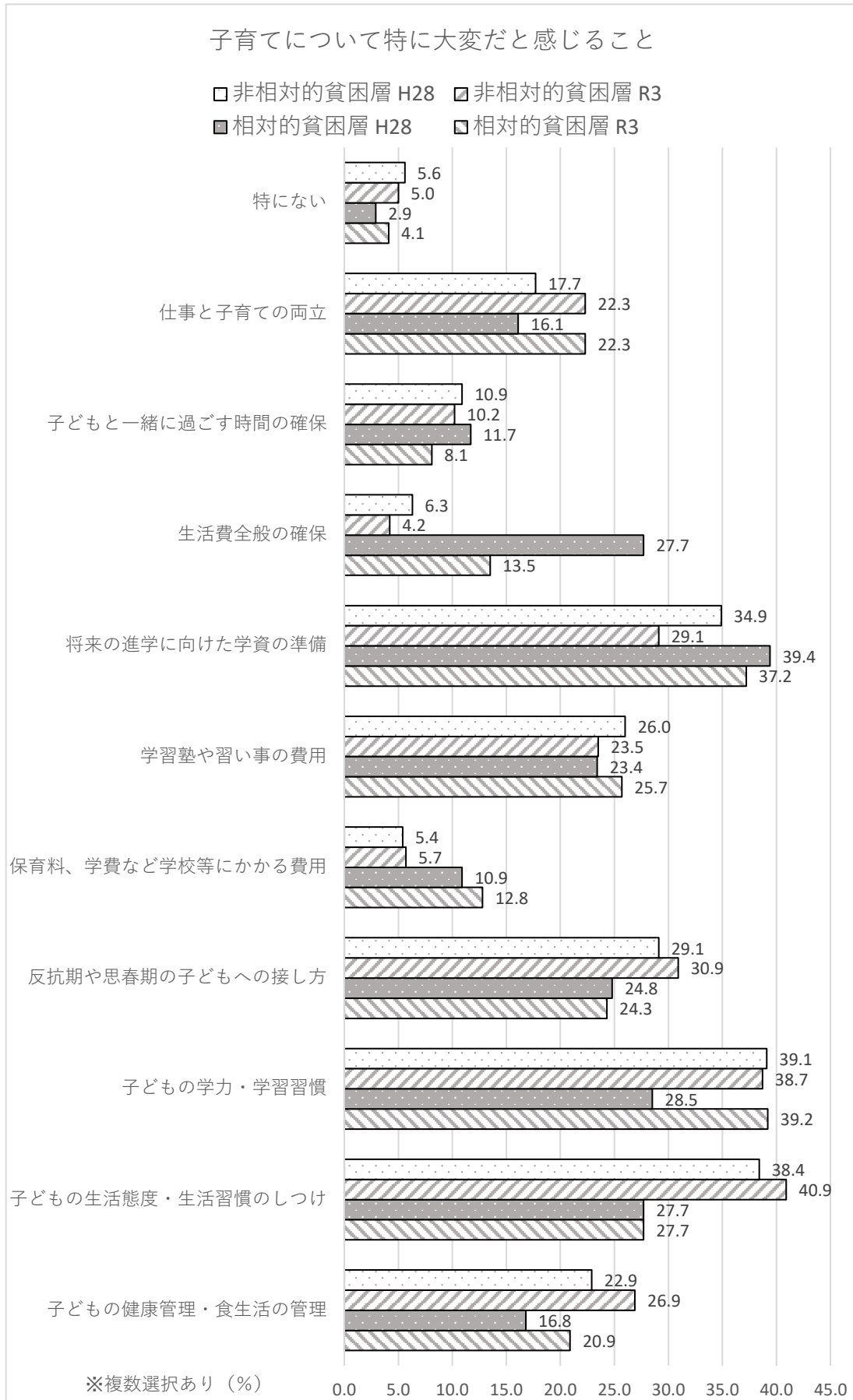
H28に比べてR3は、経済的な理由で、機会を喪失した割合は、現状維持或いは微減しています。



10 子育てについて特に大変だと感じることについての比較

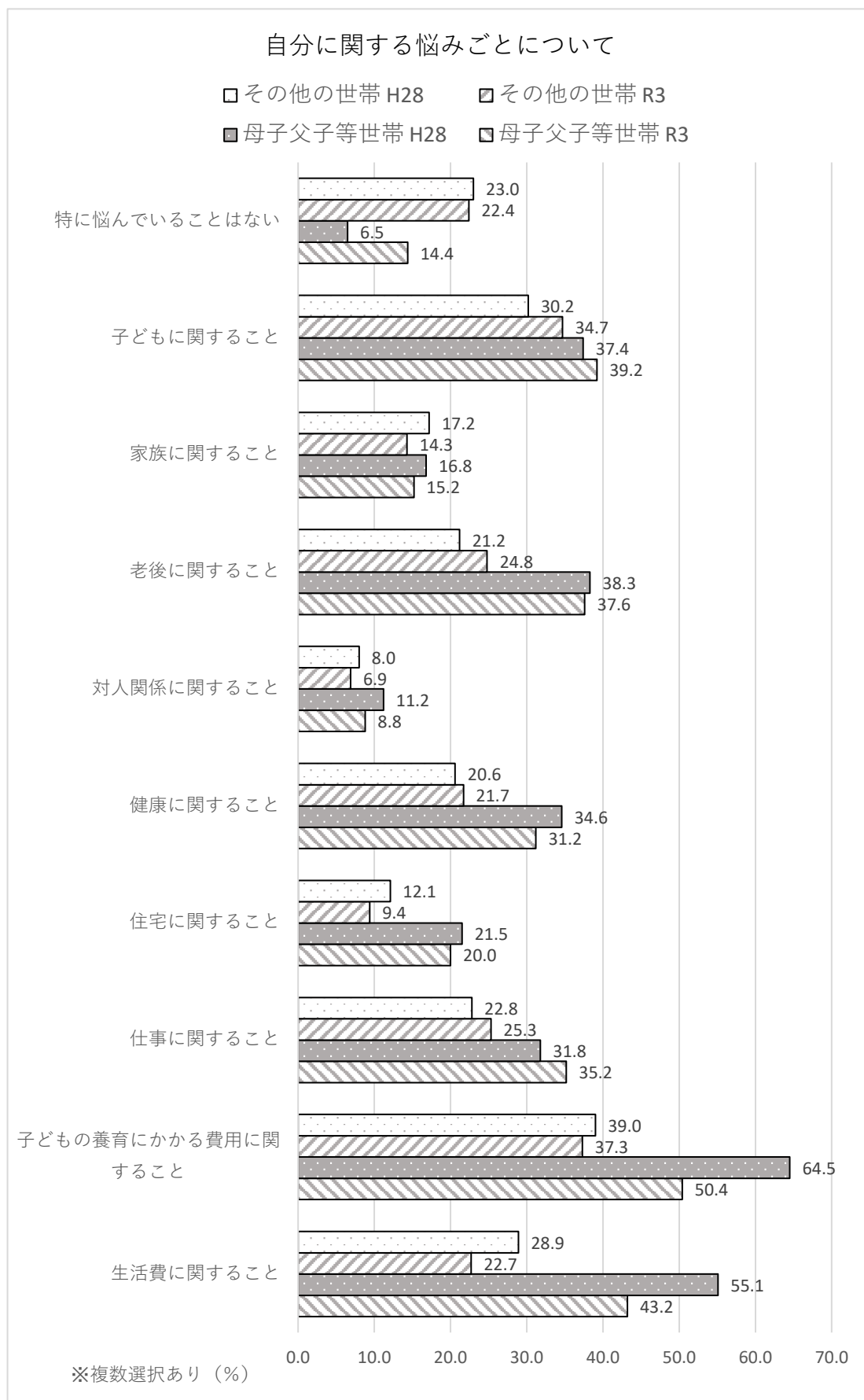
H28に比べてR3は、「子どもの学力・学習習慣」及び「仕事と子育ての両立」についての割合が増加しています。また、「生活費全般の確保」についての割合が減少しています。

この変化は相対的貧困層で顕著に見られます。



11 自分に関する悩みごとについての比較

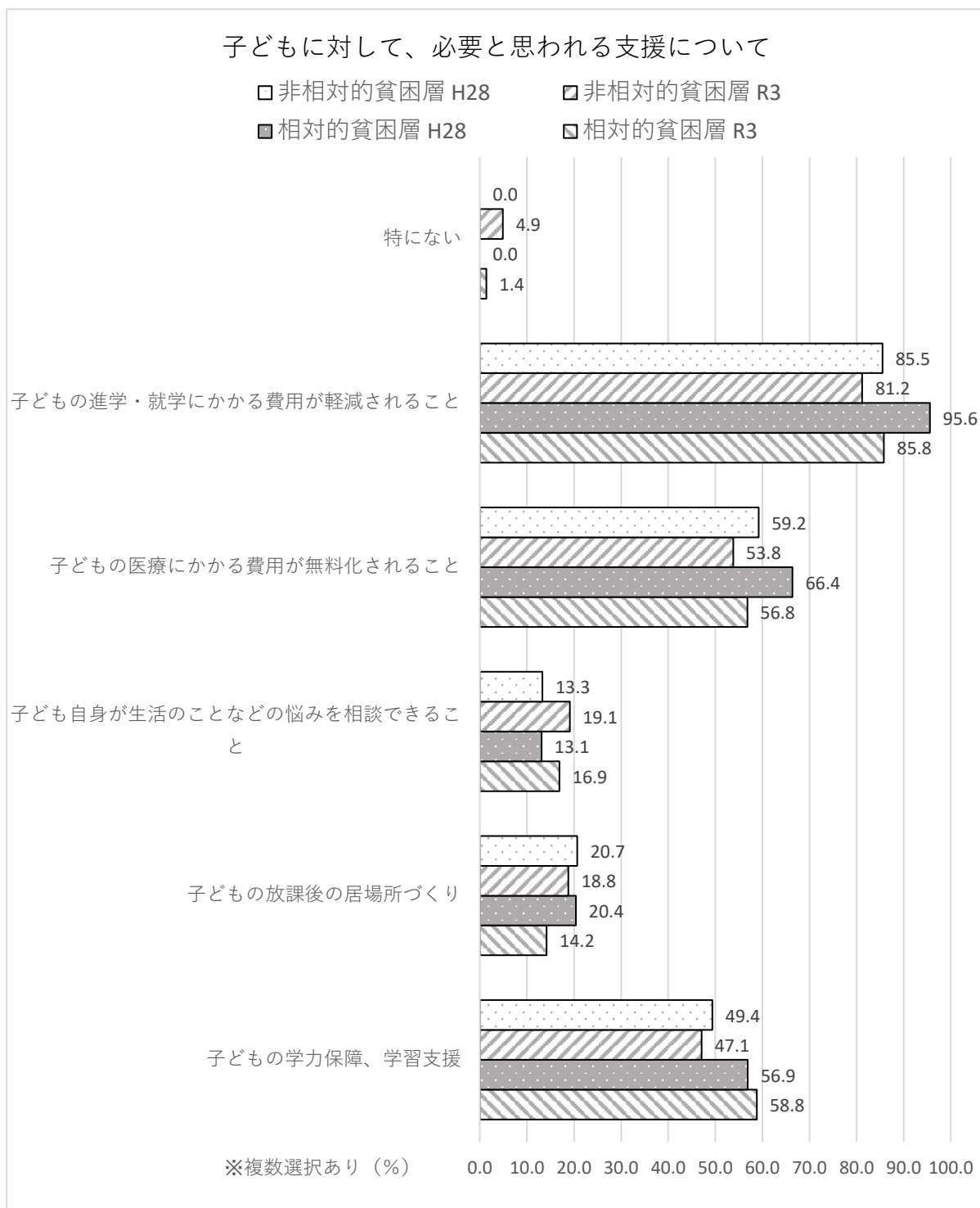
H28に比べてR3は、「生活費に関すること」及び「子どもの養育にかかる費用に関すること」についての割合が減少しています。



12 子どもに対して、必要と思われる支援についての比較

H28に比べてR3は、「子ども自身が生活のことなどの悩みを相談できること」の割合が増加しています。また、「放課後の居場所づくり」、「医療費、学費の軽減」については減少しています。

コロナ禍での生活の変化や、マスク・消毒習慣の定着による受診機会の減少などが要因の一つではないかと考えます。



13 奈良市の支援制度を受けるうえで、困ったことについての比較

H28に比べてR3は、相対的貧困層で、「制度についてよく知らない」、「制度の申請先がわかりにくい」が、微増していると同時に、「特にない」が増加しています。

支援制度について、自分事として捉えられていないのか、また、生活に追われ時間がないのかなど、いろいろな要素が考えられます。

